

婦人科手術統計(令和2年1月1日～12月31日)

手術総数 523 例

良性疾患手術 182 例

悪性及び類縁疾患手術 341 例

1. 良性疾患手術

単純子宮全摘術	28 例
腹腔鏡下单純子宮全摘出	14 例
子宮筋腫核出術(開腹 7 例 腹腔鏡 6 例)	13 例
付属器・卵巣腫瘍摘出	20 例
腹腔鏡下付属器/卵巣腫瘍摘出	59 例
異所性妊娠手術(開腹 0 例 腹腔鏡 5 例)	5 例
性器脱手術	5 例
子宮内容除去	9 例
レゼクトスコープ	14 例
子宮頸管狭窄解除	3 例
先天性形態異常に対する手術	2 例
子宮内膜焼灼	4 例
中心静脈ポート留置	0 例
その他(陰断端縫合 4 例、IUD 除去 1 例、癒着剥離術 1 例)	6 例

2. 悪性及び類縁疾患

子宮頸癌(異形成、コンジローマを含む)	
(準)広汎子宮全摘術(開腹 22 例、腹腔鏡 6 例)	28 例
(準)広汎子宮頸部摘出術	10 例
単純子宮全摘出術(開腹 1 例、腹腔鏡 22 例、腔式 0 例)	23 例
骨盤除臓術	0 例
円錐切除術	73 例
レーザー蒸散術(外来例を除く)	7 例
子宮体癌(肉腫、増殖症を含む)	
子宮体癌手術(開腹 48 例、腹腔鏡 29 例、ロボット 16 例)	93 例
子宮内膜全面搔把術	36 例
悪性及び境界悪性卵巣腫瘍、卵管癌、腹膜癌	
卵巣癌手術	52 例
その他(試験開腹、転移性癌など)	8 例

絨毛性疾患	
子宮内容除去	6 例
その他(子宮全摘術など)	0 例
外陰癌(VIN を含む)	
外陰切除	3 例
レーザー蒸散術	0 例
膣癌	
その他	
腫瘍摘出	1 例
診査腹腔鏡	0 例
生検	0 例
上記以外	1 例

1；総分娩数 645 期間：令和2年1月1日～令和2年12月31日まで
対象：妊娠22週以降の分娩

単胎	617		
多胎	28	双胎27	品胎1

2；妊娠締結週数

	単胎	多胎	計
妊娠28週未満	18	2	20
妊娠28週～36週	114	13	127
妊娠37週～41週	484	13	497
妊娠42週以降	1	0	1
計	617	28	645

3；分娩様式

経膈分娩	366
頭位経膈	357
骨盤位経膈	3
多胎経膈	6
帝王切開分娩	279
単胎	257
多胎	22
計	645

4；新生児総数

出生体重	単胎	多胎	計
-499g	6	3	9
500-999g	13	2	15
1000-1499g	23	2	25
1500-2499g	129	37	166
2500g-	446	13	459
計	617	57	674

5；周産期死亡統計

体重	死産	早期新生児死亡	計
-499g	2	1	2
500-999g	0	1	0
1000-1499g	0	0	0
1500-2499g	1	2	1
2500g-	4	1	4
計	7	5	7

6；入院総数

母体のべ入院数	775
うち緊急搬送例	135
総分娩患者	645
うち紹介患者	634

$$\text{粗死産率} = 17 / (17 + 915) \times 1000 = 18.2$$

$$\text{粗早期新生児死亡率} = 24 / 915 \times 1000 = 26.2$$

$$\text{粗周産期死亡率} = (24 + 17) / (17 + 915) \times 1000 = 45.0$$

$$\text{修正周産期死亡率} = (24 + 17) / 915 \times 1000 = 44.8$$

$$\text{粗死産率} \quad 10.3$$

$$\text{粗早期新生児死亡率} \quad 7.4$$

$$\text{粗周産期死亡率} \quad 17.6$$

$$\text{修正周産期死亡率} \quad 17.8$$